

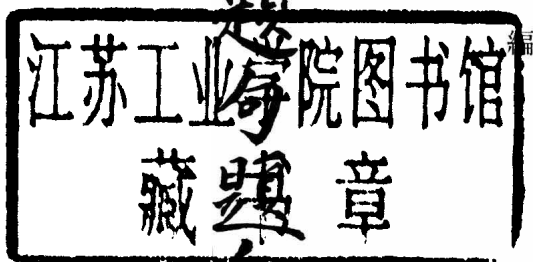
吉田榮司編

假名題句題和歌抄

——付、仙洞三十六歌撰——

古典文庫

吉田榮司



侯名題
題
和歌抄

古典文庫

古典文庫第五九四冊

平成八年五月二十日印刷発行

非売品

抄歌和題句題名仮

編者 吉田 栄司

発行者 吉田 幸一

印刷者 共立印刷株式会社

製本者 (有)武蔵製本

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話〇三(三九一〇)二七一七
振替口座〇〇一九〇一九一四五九七番

假名題句題和歌抄

目次

凡例……………	五
一 假名題和歌抄 上中下三冊 享保四年版……………	七
二 句題和歌抄 上下二冊 享保四年版……………	二九
三 仙洞三十六番歌合 写一冊……………	一七
【付】仙洞三十六番歌合 冷泉家本（影印）……………	二七
解説……………	三五

凡 例

一、『假名題和歌抄』三冊、『句題和歌抄』二冊、付『仙洞三十六番歌合』一冊を底本として翻刻した。

二、翻刻に当たっては、大体次のようにした。

1 「序例」文、および「歌合の判詞」には読点をつけた。

2 漢字・仮名の別、仮名遣い・送り仮名等表記はすべて底本のまゝとした。

但し漢字の字体が、原文が旧漢字の場合はなるべくそれに従い、原文が行草書体で、現今の常用漢字に該当できるものはその字体にした。仮名は現行の平仮名としたが、「ハ」「ミ」「ニ」の片仮名は原文のまゝとした。

3 『假名題・句題和歌抄』には、便宜上頭に歌番号を付し、なお出典のわかるもので、『新編国歌大観』に所収されている和歌については、その歌番号を漢数字で示し、語句に異同のある部分は右傍に（ ）をもって校異を示して

おいた。また、本文の右傍に。印を付けた部分は、『新編国歌大観』本にな
いことを示す。

4 原文に脱落のある所は空白にして行間をあけた。

5 文字または、語句の不明箇所には、右傍に（ママ）印をつけた。

一
假名題和歌抄

上中下三冊
享保四年版

假名句歌倭評抄

序例

數鴻乃やちやうと神代のむう久るゆれあ
きうきう乃もこよりちやあきまの叔定まれ
れこけううねのつちけさいつも屋うきう
けちやりききききあのおうととなりてこ乃
みちさうりあむりふけいあ花おと月あう
りてう乃るるうれゆとと乃とさ葉よりう
とととといふんかかれききう一寧樂のみとれ
神代よき葉集を撰りてなうく乃歌とせさう

假名句題倭謠抄

序 例

敷嶋のやまとうたハ、神代のむかし、久かたのあまのうきはしのもとよりおこり、文字の数定まれることハあらかねのつちにしてハ、いつもやへかきにはしまり豊芦原の国のならはしとなりて、このみちさかりになりにけるより、花郭公月雪に題してそのこゝろさしのゆくところを言葉にあらはすことになん、かゝれは、青によし寧楽のみかとの御代に、萬葉集を撰ハれて、くさくさの題をのせらるゝといへとも、四の時のつゐてをわかたれず、醍醐のみかとの古今集より部立を定めたまひ、物名の一巻にハ、草木鳥虫うつハもの所の名にいたるまで、題してその名をかくしよむことをしらしめらる、これハ人まろ家集に、六十余の国

の名をかくして詠せられしやはしめならん、神号を題することハ大江
千古(ママ)か詠に見え、人物を題し、経文を題することハ、後拾遺集にみえた
り、詩の句題ハ、大江千里か詠をもととして、百首によまれしハ、京極
黄門を權輿とや申へき、抑和哥の句題といふ事ハ、彼黄門建久の比秋、
右大將家にて萩の上風といふより暁の空といふまで、末の一句を十か
き出して詠せられしやはしめならん、相續て吉水和尚、壬生二位古今集
の一句を題して詠せらる、それより連綿して後柏原院の比より、三代集
の句題をもて四季恋雜に組てよむことになれり、又假名題は古今六帖
にみえ侍れと、題の文字を一字つゝ、初めの句の上にをかるゝことハ、こ
れも建久のころにや、京極黄門あさかすみといふよりはしめて、四季恋
雜の百首を詠せらる、しかれとも、巻頭はかり題の物をよまれて、其ほ
かハことものをのミつらねられたり、題の物を一首くによまれし例

ハ、吉水和尚結構ありしよりはしめて、文明のころよりさかりにもてあそはれて、濱千鳥あたたえぬこと、なりぬ、そのほか、切字を初めの句の上にをかる、ことも、京極黄門の詠せられしより世々のためしとなり、夢想の和哥にも切字をもはらをくこととなりぬ、しかるに、假名題句題のうた、代々の勅撰にのせられねハ、初学の人そのおもむきをしらす、かた田舎にハこの名目をさへしる人まれなり、よて此道にふける末学同志の人にミせしめんとて、は、かりの関の人めをかへりミす、水茎の岡の露に筆をそめて、和哥のうらの玉藻をかきあつめ五巻となしぬ、おそらくハ、てにはのたかひや侍らん、又闕たる哥の侍ることハ、写本のまゝにうつしはへる、全本を見あたりたまはん人ハ、これを補ひ給ひてんかし、

享保二年仲春良辰 洛北散人睡翁謹誌

假名題和歌抄上

拾遺集外雜歌上

春

あさひひひひのそか
なまゆるさかさつてい

あしたはれ年とてせうふねや花もさきにちちりそらん
さあや花のほろろなうう月影のうりどとてぬきおれ
あさひていひひりにあきしてつるさあやんをりけ
うねそにいつたなうねかかつううううううひまの夢
うまらや花のうのとてうな花さうひまうううう
ひのほのそえれあうあう秋のまにとありうけうう
わひきさう人のあつううううううううううう
うきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう
ううううううううううううううううううう

假名題和歌抄 上

拾遺愚草員外雜哥上

春

あさかすみ むめのはな

たまやなき かきつはた

『新編国歌大観』
歌番号、

第三卷
拾員外

- | | | |
|---|------------------------------|---|
| 1 | あらたまの年をひとせかさぬとや霞も雲もたちハそふらん | 一 |
| 2 | さゆる夜ハまた冬なから月影のくもりもはてぬけしきなるかな | 二 |
| 3 | かすか山てらすひかりに雪きえてわかなそ春をまつハしりける | 三 |
| 4 | すきかてにつめとたまらぬかなつなうらわかく鳴うくひすの聲 | 四 |
| 5 | ミヤまちや霞ハ雪の上とちてなを雲うつむ草の庵かな | 五 |
| 6 | むしのねハね覚の夢におほえつゝ秋の春にもなりにけるかな | 六 |
| 7 | めつらしき大ミヤ人のあつさ弓春のまとゐの跡をたつねて | 七 |
| 8 | のきはにそまたおもかけハ見えなからさめ行夢も梅の匂ひに | 八 |

9	はるの夜の半の月の月影のおほろけならず身にもしむかな	九
10	なからへん命をいつとおもふにも後をまつへき花のかけかハ	一〇
11	たれすみて心のかきりつくすらん花にかすめる遠の山きハ	一一
12	まとしに花ふく風の過ぬれハあつめぬ雪そ袖に、ほへる	一二
13	やみならはおりてかへらん時のまにくれぬ ^{（山ち）} る山の花の一えた	一三
14	なミの上も春ハ霞のうちなれハさくらかひをそ先ハよせける	一四
15	きの国や吹上のはまの濱風も春ハのとけくなりぬへら也	一五
16	かへる鴈なれつる空の雲かすミ立わかれなハ恋しからしや	一六
17	きのふまてかほりし花に雨過てけさハあらしの玉ゆらの色	一七
18	つゝしきくこけの通路春ふかミ日かけを分ていつる山人	一八
19	はなちりて後さへものをおもふかないまいくか、ハ春のあけほの	一九
20	たちかへる春のわかれのけふことにうらみてのミも年をふるかな	二〇